

ソウルはやはり元気だった

6年ぶりに訪れたソウルは相変わらず活気に溢れていた。屋台の数が減った代わりにビルが増え、人々の服装も垢ぬけて、特に若い女性の服装は一段と華やかになっていった。

▼変貌

ホテルがある「往十里」はこれまで耳にしたことがなかったが、駅にはチンジルパンや大型スーパーもある7階建ての駅ビルを併設したにぎやかなところ。都心にも地下鉄で20分もあれば着く。



ソウル市庁舎前の噴水広場



南山ソウルタワー前で一服



統一展望台に来た退役軍人

いた。日本統治時代の市庁舎跡に大きなガラス張りの近代的なビルが建っていた。ソウルナビで報じられていた新庁舎だ。サッカークワールのワールドカップ開催時に赤い韓国サポーターで埋まった庁舎前の広場には何十本の噴水が吹き出し子供が興じている。ソウルの新名所になるだろう。

▼IT王国

泊まったのはバスタブもない、長期滞在者用のホテルだが、今年1月にオープンしたばかりで従業員がほとんどいない代わりに玄關も部屋もオートロック式。

部屋は暗証番号を入力しないと開かない。

市内に9路線ある地下鉄も「T-money」という交通カードを購入しないと乗れない。その代わりこれが一枚あれば鉄道もバスもOKで売店でも通用する。東京にも同様のカードがあるが、ソウルの方が導入が早く、利用範囲も広い。

往十里では何回となく道を尋ねたが、若い人は必ずと言っていいほどスマートフォンを手にしていて、すぐ地図を画面に呼び出し調べたと感心した。さすがIT王国

▼6・25

ソウルから電車とタクシーで1時間半ほどの「オド

ウサン統一展望台」を訪れた日は、1950年に始まった朝鮮戦争の開戦記念日である6月25日だった。北朝鮮の人工衛星と称するミサイル発射実験の予定日に石垣島を旅行中だった富信さんは「今度は韓国でミサイル遭遇か」。ミサイルは飛んでこなかったが展望台ではちようど「6・25記

念写真展」がひっそりと開かれていた。展望台の出口で帰りのタクシーを待っていたら軍服姿の退役軍人が3人、中から出てきた。朝鮮戦争に参加した元軍人が、この日を選んで北朝鮮を望見しに訪れたのだろう。朝鮮戦争は休戦中であることを思い出した。(荻原 莞二)

円高バンザイ!

「こども銀行」枯渇せず

旅の間、4人の共有財布が枯れることはなかった。

空港で4万円を両替すると、53万6千ウォン。カラフルだが、ペラペラで頼りない感じの紙幣で財布が膨らむ。さしずめ「こども銀行」といったところ。

初日の夕食は焼肉だ。「当分肉は食べたくな

い」と思うほど食べて飲んだ。で、お会計は? ナン

ト8万8千ウォン。日本円で6600円、1人1650円也。アンビリーバブル!

さらに泣ける、いや、笑えるのが4日目の夕食、ソウル最後の晩餐だ。初日からずっと気になっていた海鮮料理店に意を決して入ることにした。店の外に並ぶ水槽には、「イカ5杯5万ウォン」などと書かれている。キムチやチゲに食傷ぎみの我ら4人の胃袋は、水槽の中を右に左に泳ぐ魚に惹きつけられる。しかし、「ここは高いよ」と互いに言い聞かせ、3日目まで店の前を行ったり来たりしながら、店のドアを開けられずにいた。

とところが、最後の夜という感傷からか、とうとう一線を越えるその時が巡ってきた。共有財布に10万ウォン以上残っていたことも気を大きくさせた。恐る恐る刺身の盛り合わせを注文。ビールは焼酎。「その前にマッコリもいっちゃおう!」。注文しながら、頭



到着初日の夕食は早くも豪華焼肉料理

の中で概算する。「まだ、なんとか大丈夫?」

ヒヤヒヤドキドキのお会計。「エッ、5万5千ウォン? 4000円ちよつとじゃない!」。

毎日、水槽横目に店の前を行き来し、あれほど頭を悩ませたのは、悲しきピンボー人の習性。「案ずるより産むが易い」とは、こういうときにこそ使う諺か?

4夜連続の宴会代は、4人合計21万9500ウォン、わずか1万6380円。東京なら、一晩で消えてしまふ金額だ。格安ピンボー旅行のつもりが、予期せぬ豪遊(?)になった。

ウォン安、円高に乾杯!
(久貝 真澄)